

創立60周年を迎えて



東北エネルギー懇談会
会長 佐藤 敏秀

当会は、原子力平和利用のための普及・啓発活動を目的に、昭和34年5月19日に「東北原子力懇談会」として発足し、東北6県及び新潟県における原子燃料サイクルを含めた原子力開発の推進の土台作りの一翼を担ってまいりました。その後、平成23年3月11日の東日本大震災を契機としまして、名称を「東北エネルギー懇談会」と改め、原子力を含め全てのエネルギーをバランス良く使うことの重要性を広く国民に訴え理解していただけるよう、様々な活動を展開してまいりました。

この間、会員の皆さまをはじめ多くの関係者の皆様からいただきました、温かいご支援・ご指導のお陰を持ちまして、私ども東北エネルギー懇談会は、令和元年5月に創立60周年を迎えることができましたこと、この場をお借りしまして、衷心より深く御礼申し上げますとともに、これまで当会の活動に携わっていただきました諸先輩の方々に対しましても、心より敬意を表します。

さて、当会は創立60周年を迎えるにあたり、これまでの当会の活動を振り返り、今後の活動の方向性を検討するために、会員の皆さまを対象にアンケート調査を実施させていただきました。その結果、当会のこれまでの活動について、「エネルギー・原子力の重要性の理解促進に十分貢献している」との評価をいただきました一方、「一般の方々への理解促進」に期待するご意見も多くいただきました。

当会としましては、こうした会員の皆さまからの声を参考にさせていただき、今後の当会の果たすべき役割、使命などについて議論を行った結果、「かけがいのない美しい地球と確かな未来のために、私たちはバランスの取れたエネルギー構造の重要性を広く発信し、理解の輪を広げてまいります！」という理念を掲げ、新たな一步を踏み出すことといたしました。

今後は、この理念のもと、現状の活動をベースとしながらも、インターネットの活用やマスコミと連携した情報発信の強化、我が国の将来を担う次世代層に対するエネルギー教育の充実等を図りながら、当会の活動の範囲の拡大・充実に努めて参りたいと考えております。

60周年という記念すべき年に、歴史ある東北エネルギー懇談会の会長という重責を担わせていただくことに、心より感謝申し上げますとともに、今後も、当会の強みである地区エネ懇や地域婦人団体等との強固なネットワークを十分に活かしながら、会員の皆さまをはじめ関係者の皆様と力を合わせ、心を一つにして、当会の理念の実現に向けて頑張って参りますので、引き続きのご指導・ご支援をよろしくお願い申し上げます。